

九州新幹線全線開業後の博多駅周辺おけるまちづくり／都市計画サロンのご報告

1. 九州新幹線全線開業後の博多駅周辺のまちづくり

博多のまちは、九州最大の交通結節点である博多駅を中心に、九州の玄関口として発展してきました。特に平成23年3月の九州新幹線全線開業や新博多駅ビルの開業により、交通結節の機能だけでなく、高い集客力とにぎわいを持つまちへと変貌を遂げました。

博多駅周辺の企業や団体が組織された「博多まちづくり推進協議会」では、博多駅の持つ高い集客力を活かし、『駅からまちへ、まちから駅へ、歩いて楽しいまち』を目指した活動を展開しています。

特に九州新幹線全線開業後は、「博多どんたく港祭り」に合わせて「はかた駅前“どんたく”ストリート」を開催し、まちの新たなにぎわいづくりに取り組んでいるほか、毎年11月から1月にかけては、博多駅とキャナルシティを結ぶ「はかた駅前通り」を中心に街路樹をLEDのイルミネーションで装飾し、まちのにぎわい創出と回遊性を高める取り組みを推進しています。そのほかにも、まちの清掃活動として実施している「クリーンデイ」は、これまで200回以上にわたり継続して取り組んでおり、参加者も毎回300名近くにのぼるなど、地域に根ざしたまちづくり活動を進めています。

また、当協議会では、まちの様々な関係者で共有する「まちの将来像」とその実現に向けた「方針と方策」を記載した『博多まちづくりガイドライン（平成21年12月策定）』の改訂を進めています。博多駅周辺は、九州新幹線全線開業後も、平成28年には博多駅中央街南西街区における大型開発、平成32年には地下鉄七隈線の博多駅までの延伸を控えており、更なる発展が期待されます。これらのまちの変化に対応していくため、九州大学・坂井猛教授を座長としたプロジェクトを立ち上げ、協議会会員の皆さまをはじめ、福岡市からも様々なご意見をいただきながら『博多まちづくりガイドライン』の改訂を進めており、平成26年4月に改訂後のガイドライン『博多まちづくりガイドライン2014』が完成する予定です。

（文責：博多まちづくり推進協議会事務局長 原慎義之）



写真-1 右「はかた駅前“どんたく”ストリート」の様子
写真-1 左「クリーンデイ」の様子

2. 平成25年度第4回都市計画サロンのご報告

日時：平成25年12月20日（金）16:30～18:00

演題：「福岡の屋台の課題と解決の方向性」

講師：八尋 和郎 氏

（公益財団法人 九州経済調査協会）

福岡にとって重要な観光資源である屋台について、都市経済に与える影響や公共の役割などをご紹介いただきました。

はじめに、2013年9月1日に施行された「福岡市屋台基本条例」についてご紹介があり、新たに「市の責務」が明示された点や、新規に屋台営業が行えるように公募が開始される点など、画期的な点についてご説明がありました。

また、屋台営業による税収は年間約5,800万円あり、営業場所の占有料と使用料による収入は約1,000万円、合計すると約6,800万円の収入があるとのことでした。さらに今後、占有にかかる費用を屋台1軒につき32,000円程度の負担を求めれば年間約5,200万円の収入となり、税収と合わせると屋台営業は年間1億円の収入を市にもたらすと示されました。屋台営業には衛生上の問題があり、上下水道やトイレの設置などが望まれています。今後、行政側が屋台営業による収入と引き換えにこれらの問題解決に努めれば、福岡経済にとっても有益であると示唆されました。

意見交換では、公共空間を民間利用として貸し出す根拠について質問があり、根拠法令は無く特区での試行や社会実験に留まっているものの、市は都市の活性化のために支援しているとのことご回答でした。また、財源確保の点や、貸した場所を管理してもらえる点、屋台営業により防犯に繋がっている点なども利点としてあげられました。

（文責：幹事 箕浦永子（九州大学））



写真-2 第4回都市計画サロン風景